



小中連携・小中一貫だより

教育委員会は、「笑顔・元気・かがやく大竹っ子の育成」を目指し、魅力的な学校づくりに向けて、「小中連携教育」「小中一貫教育」を推進しています。

小方学園のシンボルマークができました

問い合わせ 総務学事課 ☎2185

入学したい学校が選べます 学校選択制度

問い合わせ 総務学事課 ☎2185

教育委員会は、小学校と中学校の入学時に、学校を選べる学校選択制度を実施しています。

学校選択ができるのは、大竹市に住所がある、次の方です。

○平成25年度に市立小・中学校に入学する新1年生

○原則として、平成24年11月中ごろまでに転入の届出をした方で、学校選択を希望する新1年生



平成25年4月、小方ヶ丘に開校する予定の小中一貫校「小方学園」のシンボルマークができました。



小方学園のシンボルマーク。

市広報8月号でもお知らせしましたが、小方中学校3年生の塗木遥香さんのデザインをベースに、マークを作成しました。今後、学園のシンボルとして活用していきます。



シンボルマークをデザインした塗木遥香さん（小方中3）。

シンボルマークをデザインしてくれた塗木さんに、選ばれた感想やデザインなどについて、お話を聞きました。

手続きの流れ

①学校選択希望票の提出（提出時期は11月ごろ）

学校選択の申請をするためのガイドブックを、小学校1年生になる予定の子ども（未就学児）には、学校での就学時健診のとき、小学6年生には学校などで配付します。また、教育委員会でも配付しています。内容を確認して、付属の申請書類に必要事項を記入の上、教育委員会に提出してください。

なお、ガイドブックにはすべての学校の案内を掲載しています。



学校選択のガイドブック

- ②集計結果の通知（通知時期は12月上旬ごろ）
- 学校選択を希望した保護者に、学校選択希望票の集計結果を通知します。
- ③公開抽選の実施（抽選時期は12月中旬ごろ）

選ばれた感想は

一言でいえばうれしい、ということ。私の子どもが行くかもしれない学校のシンボルマークになることがうれしいです。

私は今年度で小方中学校を卒業するので、小方学園に行けないことが残念だけど、今、妹が小学校1年生なので、妹に自慢できるし、これから妹が、シンボルマークを毎日目にしたり、いろいろなものに使ったりすることを考えるとうれしいです。

デザインについて

全体的に誇れるようなカッコいいマークにしたかったです。

外枠は、今の小方小・中学校の校章を生かしたのと、亀居城の「亀」を表しました。

桜は、清らかに、みんながそれぞれの花を咲かせて、満開の桜のように「輝ける」という思いを込めました。

「學」を古い書体にしたのは、伝統を受け継ぐという意味を込め、また、共に学ぶの「学」と学園の「学」をあらわしました。ローマ字の「ogata」は、新しい学園をイメージしたものです。

ぜひ、新たな学園でみんなに頑張ってほしいと思います。

希望した保護者が多く、定数を超えた学校は、公開抽選を行います。

※ 申し込み期間を過ぎた後、転居などで、学校選択を希望する場合は、希望校が定数まで達していなければ平成25年2月まで申し込みを受け付けますのでご相談ください。

学校選択の注意点

○通学方法は、各学校の決まりに従ってください。なお、通学中の安全管理、交通費、通学手段の確保などは、保護者の方にお問い合わせすることになります。

○選択校・指定校いずれも原則として入学後、卒業するまで学校の変更はできません。

○希望しての入学ですから、学校活動やPTA活動などへは、積極的に参加して、協力するようお願いいたします。

学校を知ろう

学校を公開します

それぞれの学校がどんなところなのか知ってもらうため、学校公開を行います。詳しくは、各学校にお問い合わせください。

ホームページ

各学校が、独自に趣向を凝らしたホームページを公開しています。ホームページ内の学校紹介からアクセスできます。

<http://www.city.otake.hiroshima.jp/kyoiku/gakokuyouku.html>

●各中学校区の取り組み

● 玖波中学校区の「心の元気」

小中合同地域清掃

7月19日に、玖波小学校の5・6年生71人と、玖波中学校全生徒117名の、合わせて188人が、シニアクラブの天幸会と一緒に地域清掃を行いました。以前、花を植えたスクラム広場とコミュニティサロン、玖波駅前花壇とその周辺を、縦割りグループで担当し、草抜きやゴミ拾いをしました。この取り組みを通して、小学生から感心されたり、地域の人から感謝されたりすることで、中学生は自分自身の良さを発見すると同時に、他の人への気配りや思いやりの気持ちが育っています。



花壇の草抜きをする小学生と中学生。

大竹中学校区

生徒指導での連携を推進

市広報8月号でもお知らせしましたが、大竹中学校区では、先生たちが校内研修会で交流しています。児童理解・生徒理解についての視点を互いに交流し、二学期からの生徒指導体制や、一人一人の子どもへの対応を検討しています。